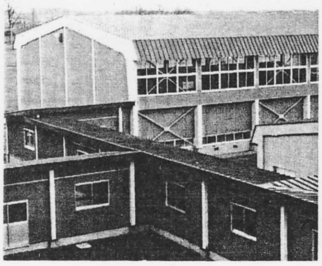
校友時報

昭和54年12月18日
編集人兼発行所
秋田県能代市高塙２番１号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 ㈱大勝堂印刷

第二体育館 ついに完成する

完成が待たれていた第二体育館は１月25日、完成予定である。他に、卓球教科器具室、運動部室七室、渡り廊下も新設された。第二体育館ができたことにより、運動部、必修クラブ、そして授業が今まで以上によいものになるだろう。



これで校内設備もほぼ万全

本格的使用までわずか 充実する部活動

一学期に工事が開始された第二体育館が一月二十五日完成する。それまでにまだ一ヵ月ほどあるが、現在ほとんどできあがっている。まだできていないのは体育館の中のバレーの支柱を立てる金具、バスケットのリング（十二月十五日取り付け終了）と窓に付ける防球ネットだけである。各部室と渡り廊下は既に使用が始められ、体育館も一部の授業で使われている。本格的な使用は三学期になってからの予定である。

ところですべてを含めてかかった費用は、一億一千百七十七万円である。その内分けは県負担額七千三百九十万円、地元負担額三千七百八十七万円。地元負担というのは、PTA、同窓会、一般の人々からの寄付である。

使用の幅が広がる

第二体育館は、バスケットコートなら一面、バレーコートなら二面ほどとれる広さである。そして、すぐそばに卓球教科器具室も新設された。また、第一体育館にないもので、新しく取り付けられた物は、鉄棒（高・低三本づつ）、体力作りに使う肋木（五本）、つり縄（三本）である。これらを使うことによって、今まですることができなかった新しい運動、例えば縄のぼりなどをすることができ、本校生の体力増進に役立つだろう。

また、新設された部室は、バレー、バスケット、山岳、スキー、軟式野球、陸上、サッカーの七つの部室である。今まで教室などで行っていた着がえなどができるし、持ち物の安全も保証される。精神的にも励みになるだろう。

第二体育館を放課後使用する部は、体操部と卓球部である。この二つの部が移動することにより、どの部も今までの倍の広さで練習できるようになる。いくつかの新しい部室ができたことも合わせて、運動部は本当に練習しやすくなった。すぐに効果を求めるのは無理だろうが、今後の成績はかなり期待できるものとなるだろう。

授業では、今まで二クラスや三クラスが一緒に体育館を使わなければならなかったが、これからは各クラスごとに使うことができる。中味の濃い授業になりそうである。必修クラブでは、バドミントンなどが使うそうである。他のクラブも、これまでより多く体育館を使うことになる。クラブの内容もこれまでより充実してくるだろう。

最後に、使用に当っての注意だが、「第一体育館と同じで、こわさないで大切に使う。そうじは丁寧に、電気で遊ばないこと」と体育科では言っていた。

部説 愛にみるやさしさ

誰でも、人生の中で一度は恋をするものである。特に中学校、高校時代は、だれそれを好きだのきらいだのという話に花が咲く。本校でも交際をしている人達がたくさんいると思うが、相手を愛しているかと聞かれれば返答に詰まる人が多いのではないだろうか。私達高校生にはまだ〝愛〟などという言葉は早過ぎるのかもしれない。しかし、男と女がつき合っていく上では、相手に対して思いやりやさしさが必要であると思う。それでは、その〝愛〟そして〝やさしさ〟とはいったいなんだろうか。

何でも相手の望むようにしてやり、ただおだてていたわってあげる態度を〝やさしさ〟だと誤解してはいけない。もし、悪いことやまちがったことがあったら、それをはっきり相手に指摘してやることが大切ではないだろうか。お互いにいたわり合うことも必要だろうが同時に、相手を刺激しあう部分がないといけない。相手の立場に立ちつつも、自分の意見をはっきり持ち、人間と人間としてぶつかり合い、コミュニケーションをたもつこと、それが、愛でありやさしさであると私は思う。そして男は、やさしさの中に、ある程度のきびしさを持つことが必要であり、女は、男に対してそれだけのかしこさがなければならない。

ところで、このようにして交際していく上でも第一に、周りの人間のことを考えなくてはいけないのではないだろうか。よく、「あばたもえくぼ」と言われるように、その人のことは何でもよく見えて、周囲の方には目がくらんでる人がいないだろうか。「私達は、他人には迷惑はかけていません」というような調子でつき合ってる人達を見るとムカッとくる。

多少の嫉妬心もあるからかもしれないが……。しかし、当人同士は迷惑をかけていないつもりでいても、直接的ではないにしろ周りでは、いやな目で見ているということもあるものだ。とかく人は、男女間の関係に対していろいろとうるさいものだ。あくまでも、学校という団体生活の場の中での個人対個人のつき合いなのである。したがって、その団体生活の方に先に目を向ける必要があると思う。過熱しすぎは禁物である。

現在、交際している人も、これから交際する人も、まず自己を見つめるということを忘れないでほしい。自分の愛せる、信頼できる相手がいても、しょせんは一人なのだから。お互いに影響しあいながらホンモノの〝愛〟、〝やさしさ〟を理解し、責任のもてる男女交際をしてほしいものである。

事務用品から
学用品まで

塚清
畠町 TEL 4―4351

命を縮める喫煙

未成年者の喫煙は法律によって禁じられている。また、たばこの自動販売機にも「未成年者の喫煙は禁じられています」と明示されている。しかしそれにもかかわらず、近年未成年の喫煙者が増加してきていることが、様々の調査で明らかにされている。

本校の場合もその例に洩れず、先頃行なわれた生活実態調査で、全校生徒の三十パーセントがその経験を持ち、これは昨年よりも増えているということがわかった。最も、この中にはほんのいたずらのつもりでやり、一度だけで終わった生徒も多く、現在も喫煙しているのはその中の四十パーセント弱である。

経験の時期は、その半数以上が高校入学以前である。その中で特に目立つのは小学生時で三分の一弱を占める。次は中三の時期で、ここに問題があるようだ。というのは、小学生時での経験の場合はその場限りで終わってしまうのだが、中三ともなると、そのままずるずると高校にまで持ってきてしまい、〝モク仲間〟の中心となってしまう例が多いからだ。また高二でも目立つが、これは修学旅行をきっかけとしたのだと言われている。

喫煙場所は「自宅・友人宅」が大部分を占めている。またわずかではあるが、「学校のトイレ」というのもあり、このため昨年男子トイレのガラスをすりガラスから透明なものにし、外からでもすぐにわかるようにした。その効果は上がりはしたが、最近、またややトイレでの喫煙者が増えてきている。

喫煙の動機は「なんとなく」が圧倒的に多く、経験者の約六十パーセントがこれである。その次が「友人に勧められて」で、この他には「おとなの真似がしたくて」というのもあり、どれにしても、自分の明確な意志に基づくものではなく、極めてあいまいな好奇心による動機ばかりのようだ。

たばこは、ニコチンという猛毒で神経の中枢を冒す物質が含まれていて、多量に用いるとニコチン中毒となってしまい、人体にとっては決してプラスになるものではない。それだから、未成年のうちに「なんとなく」では済まされないことになる。また、生徒指導部の納谷喜代松先生は、「校則にも喫煙禁止とされているのに吸っているのは、校則の軽視ということにもつながり、非常に心配だ」とおっしゃっていた。

法律や校則を守らなければならないなどの道徳的な面も大切であるが、それよりも、一人一人が健康の大切さを考え、自主的な自制こそが望ましい。

冬の服装 特別の規制せず

・毛製の帽子の着用を認める。
・オーバーは茶色（こげ茶が望ましい）の場合は、無地・無装飾とする。
・ワイシャツの上に着るセーターは派手なものをさける。
・極度に色の濃い眼鏡はさける。
・長ぐつの使用を認める。（女子はきびしい風雪の時、ブーツを使用してもよい）

以上が、本校の冬の服装についてのきまりである。これを見てもわかると思うが、本校は規則があまりきびしくない。能代商業高校のように、オーバーを指定されている訳でもなく、ブーツの色、形その他細かいことはすべて個人の自由となっているので、私達生徒にとっては、非常にありがたいことである。生徒指導部の納谷先生も「別に細かい点までは、とやかくいうつもりはない。ただ華美優雅にならないように注意して基本的なことがきちんとしていればそれでよい。例年の傾向からみても、大部分の人が守っていたようだったし、ただほんの数人が目についた程度で…。だから、今年も、そういう人がいたら、厳しく注意するつもりだ」と、冬の服装については、特別に関心を持っている様子ではなかった。しかし、私たちは、このことを誤って受け取ってはいけない。

実際「要するに、この学校は暖かければ何を着てもいいんじゃないか」と思っている人も少なくはない。先生が主張していた基本的なことは絶対に守るということを、ここでもう一度しっかり認識してはどうだろう。それさえきちんと自覚していれば、他にはこれといった問題はない。

今はもう十二月の中旬、そろそろ寒さがきびしくなってきた。本校は冬季「幻の校舎」という異名をとるほどの風雪で有名である。十分な服装の完備、そして華美優雅にならないように気をつけて、これからの生活にのぞもう！

志望校、地元に集中

来年一月十二日、十三日に国公立大学の〝共通一次試験〟が実施される。本校では三年生百七十四名がこれを受験する。

この共通一次は昨年初めて実施され、今年で二度目である。今回は昨年の資料があり、足切り制度が幾分緩和されるとはいうものの、受験生にとっては、当分〝厚い壁〟となりそうだ。

今年の特徴は、地元志向が増えているということで、秋田大学への志望が全体の三分の一の六十名を占めているほか、弘前大学、東北大学などの志望が多い。また、国公立の併願ができないため、私立大学の併願が多くなっている。科目も七科目と多いうえに、試験の時期が早いため受験生にとってかなりの負担になっている。

進路指導部では、一次試験対策として「一、二学期に主要教科を教科書中心の課外補習で基礎力を養成すること」二次試験対策として「二学期後半・冬期休業中の特別補習で応用力を養成すること」をあげている。成果は少しづつではあるがあがっているようだ。

高校での学習到達度をみるべく昨年から実施されている共通一次。その共通一次があと三週間と迫っている。受験生は、基礎力を充実させ、万全の準備で臨んでほしい。

進路志望状況（12月７日現在）

	国立大	私立大	短大 国	短大 私	各種短大	就職
A	21	20			1	8
B	24	15			1	11
C	15	25	1		2	7
D	10	30	1		4	5
E	26	20			1	3
F	38	7			2	1
G	40	4	1		1	0
計	174	121	1	2	12	35

成績上々の美術部

十一月十日から十日間、高校美術展高校文化祭が県立美術館で開催された。

この美術展には全県のほとんどの高校が参加し、本校からも五点が出品されたが、本校のレベルは全県でもかなり高く、好成績をあげたようだ。なお本校生徒の成績は次の通り。

推奨　小林幸喜「越後さん」
入選　渡部浩明「ひとりの部屋」
　　　斎藤　僚「首」
　　　伊東ヒサ子「秋桜」

また今回入選した斎藤君は、全国学芸コンクール旺文社学芸奨励賞二席に入賞した。

論点

▼道路交通法が改正されてから一年たった。県警交通部による改正道交法施行後一年間の結果をみると、酒酔い運転は前年同期に比べ四六％減少した。だが、一応の目的は達したものの、六月をピークに飲酒運転の減少率は低下し、飲酒運転に対する県民の意識が低下している▼これと同じような現象は、我々の身のまわりにもよくある。ごく身近な例としては、本校の遅刻問題がある。せっかく数週間にわたる指導で遅刻者が減少しても、指導期間が終わるとすぐに遅刻者が、また増え出している▼どちらも守らねばならない規則である。しかし、このように再び守らなくなるような規則では無駄である。せっかくの苦肉の策も、まさに水の泡になってしまう。時間がたつにつれて忘れてしまうというのは、なんとも情けない話である▼では、どうしたらそのような現象を防げるのだろうか。一人一人がもっと自己に厳しくなって自覚すればよいのかもしれない。しかし、それは非常に難かしいことである。現に、道交法改正時の県民、遅刻指導週間時の我々は、新たな決意を持っていたはずである。にもかかわらず再びこのような現象になってしまったのだから、土台無理な話である▼だからといって仕方ないですまされることではない。明らかに悪いことなのである。世の中には良いことと、悪いことがある。そして、我々はそれを判断する目を持っている。我々がこのような現象を起こす時、その目はどうなっているのだろうか。その目はかすんでしまっているのではないだろうか。時間という巨大な流れによって、良いことも悪いこともわからなくなってしまってはいないだろうか▼ゆえに、我々は時間に流されてはいけない。たとえ時間に流されそうになっても、決意を持った時を忘れてはならない。「初心忘るべからず」である。常に良いことと悪いことを見分ける目を輝かせることが、必要である。